

2023 年度（令和 5 年度）

第 1 回 学校関係者評価委員会 議事録

日 時：令和 5 年 8 月 31 日(木) 18：00～19：00

場 所：福山医療専門学校内 1 階 会議室（リモート開催）

記録者：竹下 順也

出席者：12 名

西川 文雄、住田 祐輝、東 京太郎、仁泉 健太郎、濱藤 春暉、曾田 修治、橋本 笑子
清水 麻住、竹下 順也

うちリモート参加者：3 名

望月 重伸、灰垣 俊志、佐々木 伸樹

欠席者：1 名

西村 和人

1. 開会挨拶

濱藤副委員長より挨拶

2. 学校長・委員長挨拶

東学校長・委員長より挨拶

2023 年度において、前年度の国家試験合格率目標に対する反省を踏まえて、各学科より方針を伺いたい。今年度も引き続き実施する退学者対策においても、本質はどうか説明してほしい。皆様からは、適切な指導ができているかご意見をいただきたい。

（挨拶の後、議事録作成の指名と議事録署名人の指名があった）

3. 報告事項

本会議の議長に東学校長、記録者に竹下事務長を指名し、下記の議事審議に入る。

議案 1 2023 年度（令和 5 年度）における方針について

各学科長から 2023 年度方針の報告があった。

演籐（作業療法学科 学科長）

【目 標】

入学生：40名、退学者：6.0%以下、国家試験受験率：100%、国家試験合格率：100%

今年度は、一番に退学者減少に努めていきたい。前年度も高評価である効率的な他学年交流勉強会を実施し、相乗効果を図りながら個々の学習レベルを見極めて対応していく。

国家試験においては、基本的に全員受験を目指しているため国家試験合格率100%を維持することは極めて困難であるが、17名全員合格を目指していく。

対策として、1年次早々に行う実力テストの結果をもとに、個別支援計画を作成し、実施していく。また、全学年月1回の実力試験を実施は継続し、さらに模擬試験での評価を繰り返すことで細かい指導を行う。0時限目個別支援や放課後他学年交流も継続して実施するなど教員総出にて丁寧に対応していく。

〈模擬試験結果〉

項目	第1回 8/18
受験人数	16
未受験者	1
合格点	168
平均点	176.1

第1回目の模試を実施した結果、合格圏に達しているものが11名、未達が5名となった。

未達者については、専門基礎分野配点100に対して、50点以下のため、個別に指導強化としていきたい。現在は実習期間中ということもあるので、秋学期から12月にある模試に向けて、合格圏内者の増加と合格予測85%以上を目指していく。

仁泉（理学療法学科 学科長）

【目 標】

入学生：40名、退学者：8.0%以下、国家試験受験率：100%、国家試験合格率：100%

今年度も入学生の定員クリアを目指して継続活動していく。

退学者においては、昨年度 11.1%という悪い数値を出してしまった。専任教員で細かく学生をグループ分けして、ケアをしてきたが一定数の学生には効果がなかったため、再度指導内容を熟考していく必要がある。毎月 1 回の実力試験では、国家試験合格ラインに達しない者が多く、かなり強化が必要である。

〈模擬試験結果〉

項目	第 1 回 8/18
受験人数	36
未受験者	2
合格点	168
平均点	144.3

第 1 回目の模試を実施した結果、合格圏に達しているものが 7 名、未達が 29 名となった。合格点に対して 5 点未満のものが 5 名おり、専門基礎分野を強化すれば到達できるため、個別の強化していく。合格予測も 19.4%と全体的に足りないため、専門分野にも力を入れて指導していきたい。第 2 回実施時には合格予測 50%以上に上げていく。

曾田（救急救命学科 学科長）

【目標】

入学生：30名、退学者：5.0%以下、国家試験受験率：100%、国家試験合格率：100%

前年度は2.0%の退学率となり、年間1名で留めることができた。学生ケアを担当、副担任の2名体制の中で、副担任の関わりを強化したことが効果的であった。学力低下が見られる学生には、補習授業を実施し、模擬試験の結果をフィードバックしながら苦手分野の克服をしていく。

国家試験については、全員受験を実施し、合格率100%を達成する。

〈模擬試験結果〉

項目	第1回 4/4、4/7	第2回 6/23
受験人数	18	18
未受験者	0	0
通常合格点	132	132
必修合格点	44	44
通常平均点	127.4	117.9
必修平均点	40.2	34.4

夏季までに2回の模擬試験を実施したが、合格予測が極めて低いことがわかる。この模試はいずれも過去問を中心とした学内模試であり、学習範囲外も含まれているため平均点は上がっていない。本科は、秋学期以降で本格的な模試が始まるため、その対策として継続していきたい。

今回の結果を見て、いずれも必修問題が合格点まで到達しておらず、全体的な底上げが必要である。

冬季までに模擬試験が5回控えているため、模擬試験前の対策として集中講義を実施していく。第3回で合格予測30%以上、第4回では50%以上と段階的に上げていけるように注力する。

橋本（看護学科 学科長）

【目標】

入学生：40名、退学者：10.0%以下、国家試験受験率：100%、国家試験合格率：100%

前年度は25.0%の退学者を出し、過去最低の数値となった。指導強化の末、アプローチ不足と教員同士の連携不足、また個々のマッチングができてないことが要因である。

まず一番は教員の安定化を目指し、指導内容の充実及び強化を図る。学習についてこれない学生のケアについても放課後学習を利用し、細かくサポートしていく。

国家試験合格率については、前年81.8%と最高値を出せたものの、全国平均を下回る結果になっている。今年度こそ合格率目標100%を目指し、本学科での最高値を出したい。

病院実習では、コロナ禍を抜け徐々に実習規制環境も緩和してきているが、日々の体温チェックは欠かさず、学生の体調ケアに注力して実習活動に支障がないよう指導する。

〈模擬試験結果〉

項目	第	第	第	第	第
	1	2	3	4	5
	回	回	回	回	回
	4/5	5/2	6/17	7/15	8/10
受験人数	19	19	19	19	19
未受験者	1	1	1	2	1
必修合格点	40	40	40	40	40
一般/状況合格点	156	156	156	156	156
必修平均点	35.1	35.7	35.2	39.6	37
一般/状況平均点	130.6	128.8	161	165.3	146

これまで5回に及ぶ模擬試験を実施したが、合格圏内に入る学生数が5名未満である。毎月業者を変えて、国家試験の傾向を掴めるよう工夫しているが、いずれも必修問題の得点が獲得できていないことがわかる。秋学期以降にも、残り6回控えているため、必修問題40点のボーダーラインを超えるように集中指導していく。

4. 報告に対する意見

濱藤副委員長

各学科の報告事項に関して具体的な提言をお願いします。

西川（企業等評価委員）

今年度も退学者の問題が絶えないが、しっかり対策できているのか。

佐々木（企業等評価委員）

実習期間中に脱落する学生を多く見てきたが、こちらの学校でも一定数はいると思う。教員としての指導は素晴らしいものがあると感じるが、学生の目線で細かくケアしていくことも必要なのではないか。

橋本（看護学科 学科長）

コロナ禍での実習地調整に大変で苦勞している。新任教員も2名増え、教育の質を維持するため尽力しているところであり、教員の指導力の向上に努めている。実習前後の対策は、かなり注力してケアしているので、このまま継続していきたい。学生の学習レベルの中で必要であれば、学内補充実習を組んで底上げを実施していく。

仁泉（理学療法学科 学科長）

退学者減少には非常に悩んでいる。もともと学習レベルが低い学生もいるため、一元的に管理していくことが困難である。個別支援を強化し、細かい繰り返しの作業で退学者が減少すると考え、取り組んでいる。

5. 閉会の挨拶

濱藤副委員長

今後の当校の方向性、次回委員会開催予定などについての説明行う。

以上をもって各審議・報告事項を終了する。